

## 高齢者と児童の交流

～入所者も児童も笑顔に～



12月17日(月)：あっとほーむイースト

高齢者とのふれあいを通して、児童の思いやりの心を育む交流体験。東湊小学校3年生は、デイサービスセンターを訪問し、入所者と一緒に昔遊びや会話を楽しんだ。児童は、入所者にクリスマスの歌を披露したり、肩をもんだりして喜ばせていた。始めは緊張気味だった児童も入所者の笑顔を見てだんだんと笑顔に。和やかな雰囲気の中、高齢者は児童が楽しませてくれる姿をほほ笑ましく見守っていた。交流を通して、児童は相手への心遣いを身に付ける機会となった。

## 空手道型選手権大会で優勝

～小崎川兄弟～

12月25日(火)：七尾市役所

12月の全日本空手道型選手権大会で優勝した小崎川楓雅くん(山王小学校2年生)は、予選、決勝を通じて参加した選手の中で、最高点を得て見事優勝を勝ち取った。弟の優雅くん(同校1年生)は、兄がたくさん優勝する姿を見て、プレッシャーに負けず県大会で初優勝。松下師範は、「毎週3回の練習を欠かさず、日々技のレベルが向上している」と兄弟を称えた。兄弟は「練習した結果が大会で表れるので楽しい」と話した。これからも兄弟で切磋琢磨し、世界で活躍する選手になってほしい。



## 消防出初式

～防火活動への士気を高める～



1月6日(日)：みなとふれあいスポーツセンター、御祓川

消防職員や消防団員の防火活動への士気を高める、第一消防団の消防出初式。不嶋組合長は「消防団員によせる期待はますます高まっている。市民が平穏に暮らせる住みやすい環境を目指してください」と述べた。式典の後、近くの河川敷に移動。消防団員は、担当する地域に火災が起きないこと、そして無事故で活動ができることを祈り、勢いよく一斉放水を行った。消防団員は、小雨の降る寒空の中、引き締まった表情で消防活動に携わる決意を新たにした。



12月19日(水)：石崎町福祉会館

県生涯学習インストラクターの会会長の川部謙三さんを招いて、石崎町の高齢者30人が高さ約30cmの「ミニ門松」づくりに挑戦。細い竹や松の葉を挿し、南天の実やしめ縄などで彩った。川部会長から、見栄えを良くするため、南天の実や葉の位置を考えてそろえるよう指導があった。参加した大松幸子さんは「80点の出来栄え」と満足げな表情で話した。門松づくりを体験して高齢者の生きがいづくりにつながったのでは。

ミニ門松づくり  
～高齢者の生きがいづくり～



12月18日(火)：御祓川大通り周辺

ひったくりや空き巣などの犯罪が多発する年末に合わせて、防犯を呼びかける地域安全ナイトパトロールが行われた。参加者は、不嶋市長や各地区の防犯委員、警察官約50人。七尾警察署で出発式が行われた後、七尾駅周辺を歩いて、飲食店に立ち寄り防犯を呼びかけた。参加した防犯委員は「犯罪を防止して安全・安心なまちにしたい」と意気込みを話した。パトロールを通して、市内での犯罪を予防する機会となった。

地域安全ナイトパトロール  
～安全・安心なまちへ～



1月5日(日)：七尾市公設地方卸売市場

今年初めの取り引きを祝う初市式が行われ、威勢のいい掛け声と共にスタートを切った。卸会社、買受人らが参加し、市場の発展を願う三本締めで最初の競りが始まった。冬の味覚のころ柿や、七尾沖の定置網に入ったブリやタラなど、さまざまな活きのいい魚介類が並べられ、競り人の歯切れのよい声が響く中、買受人によって次々と競り落とされた。私たちの胃袋を満たす市場は、初日からにぎわった。

卸売市場初市  
～威勢のいい掛け声と共にスタート～



12月28日(日)：七尾市役所

原田とよ子さんは、昨年3月と今年5月に日本赤十字社へ合計600万円、七尾市へ300万円を寄付。国から、公益のため多額の寄付をし、功績顕著な人に贈られる紺綬褒章を受章された。原田さんは「90歳を過ぎても元気に過ごせることへの感謝。自分のためにだけでなく困っている人に使ってほしい」と話した。寄付は、東日本大震災に使用され、また、一部市の福祉用車両に充てられる。

紺綬褒章伝達式  
～原田とよ子さん～



1月17日(木)：大呑保育園

地元漁師が園児の目の前で、体長90cm、重さ9kgのブリをさばいて見せた。園児に、地元で水揚げされた天然ブリを知ってもらい、脂がよく乗った切り身を味わってもらって毎年恒例の食育活動。園児は、ブリが3枚に下される鮮やかな包丁さばきに目を見張った。切り身は、照り焼きのプリステーキにして試食。園児は「もっとおかわりがほしい。家でも食べたい」と残さず食べていた。園児は、ブリの味に満足そうな笑顔を見せていた。

ブリの解体ショー  
～鮮やかな包丁さばきに目を見張る～



1月11日(金)：平野宅(庵町)

農業や漁業をしなが、4人の子どもを育て上げた代喜子さん。大きな病気はなく、92歳のときに骨折し入院しただけで、今も元気に過ごしている。長男の一郎さんは「自分で作った野菜を食べて、小食であったことが長寿につながったのでは」と話してくれた。不嶋市長から花束を手渡された代喜さんは「ありがとうございました」と両手を合わせてお礼。ひ孫を含む大勢の家族にお祝いされた代喜さんからは、笑みがこぼれていた。

100歳誕生日おめでとうございませ  
～平野代喜子さん～